

# 平成 21 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 21 年 6 月 19 日

香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 20 年の共販の取扱数量は 1,999 トンで、前年比 113%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 19 年までの平均）134%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 15 億 200 万円（前年比：106%、平年比：112%）、751 円（前年比：106%、平年比：112%）であった。共販量・共販金額共に、昨年および平年値を少し上回った。ここでは、過去 15 年間の調査を基に、平成 21 年のカタクチイワシの漁況予報を行った。

## 1. 水 温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると、1 月から 6 月の水温は、「平年並み～かなり高め」に推移しており、昨年と比べても高めに推移している。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年は 4 月下旬から産卵が開始したものと思われる。6 月 1 日の水温は、平年より 0.8℃、昨年より 1.2℃高かった。

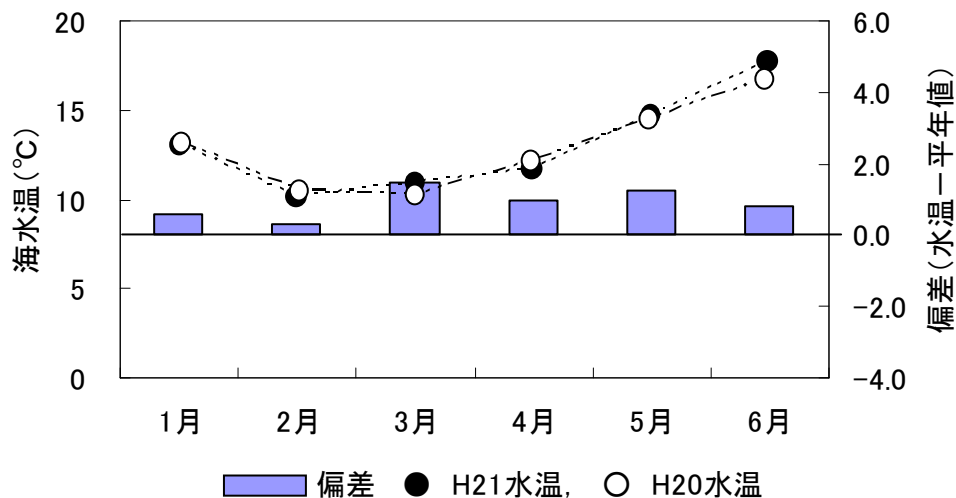


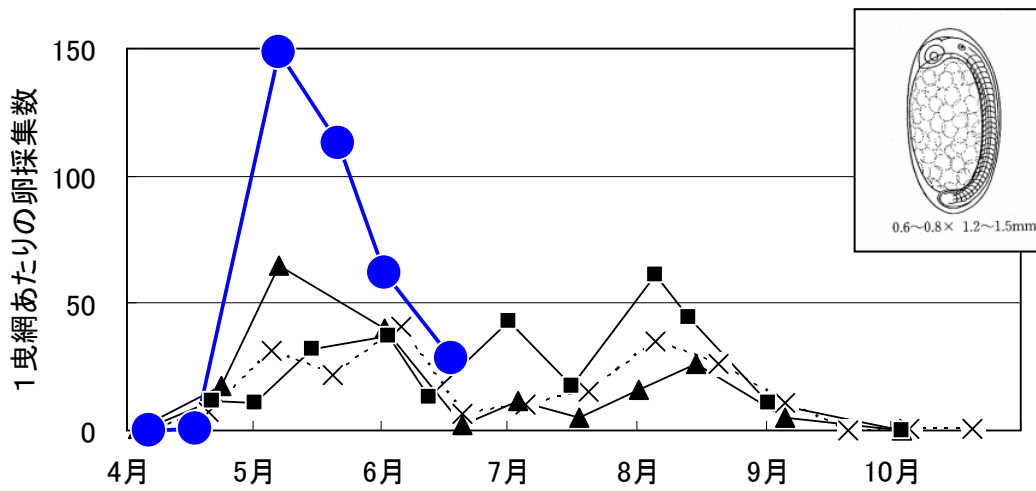
図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

## 2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵の出現状況について調べるため、4 月上旬から 6 月中旬の間に合計 6 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特 B ネット（口径 45 cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は、4 月下旬から出現し、5 月上旬から 6 月上旬にかけて平年値を大きく上回る出現量であった（図 3）。稚仔についても 5 月中は平年値の 2 倍以上の出現量であった（図 4）。これらのことから、産卵量は平年に比べて、非常に多いものと考えられる。

## カタクチイワシ卵



燧灘におけるカタクチイワシの卵出現状況

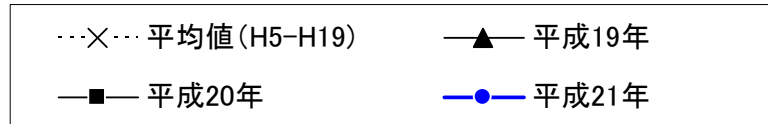
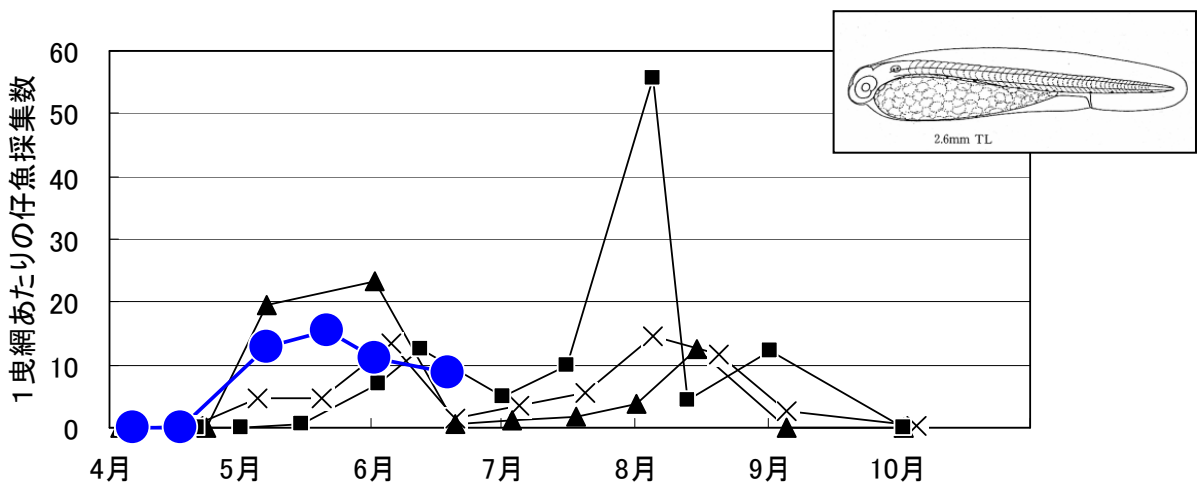


図2 1 曳網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

## カタクチイワシ仔魚



燧灘におけるカタクチイワシの仔魚出現状況

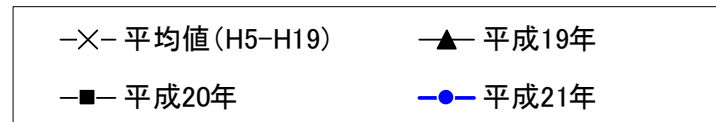


図3 1 曳網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

### 3. プランクトン

口径45cmのマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月中旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表2に示す。

プランクトンの量（沈殿量）は、5月下旬を除いて、昨年より大幅に少なかった。優占プランクトンは、ノクチルカ（夜光虫）とシフォノフォーラ（管クラゲ類）であった。カタクチワシの主餌料であるカイアシ類（COP）は4月下旬と5月上旬に優占したが、その密度は平年並みで、5月下旬以降のカイアシ類の密度は平年より低かった。平成21年の餌料環境は、平年並みかやや低い水準であると考えられる。また、6月下旬の卵稚仔調査では、魚類の卵や仔魚を捕食するカブトクラゲが全域で高い密度で出現しており、カタクチワシの加入量への影響が心配される。

表2 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成21年	NOC	NOC COP	COP SIP	NOC DOL	SIP HYD	SIP HYD
(沈殿量 mL)	6.2	4.0	2.6	2.6	1.7	2.1
平成20年	NOC	NOC	NOC	NOC COP	NOC SIP COP	NOC DOL SIP
(沈殿量 mL)	20.2	10.7	39.8	2.4	4.3	17.0

※「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ（カイアシ類） SIP：シフォノフォーラ（管クラゲ類）

NOC：ノクチルカ（夜光虫） DOL：ドリオラム（ウミタル）

HYD：ヒドロ（ヒドロクラゲ類）

### 4. カタクチワシの漁況予報

6月下旬から漁獲されるチリメンは5～6月に燧灘で産卵された卵が孵化、成長したものである。卵稚仔調査によれば、卵および稚仔の出現量は「平年より多め」に推移している。カタクチワシの餌となるカイアシ類の量は、平年と比べると全般的に少なめに推移している。

この時期のカタクチワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、一般的には早いもので6月上旬からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

チリメン漁解禁後の漁況予測：5～6月の卵採集量は平年より「平年より非常に多い」ものの、少雨等の影響によって餌料環境が、「平年並み～少ない」ことから、チリメンの加入量は、昨年より若干少なく、「平年並み～やや少ない」ものと思われる。